令和６年２月６日（火）

日刊自動車新聞　７面

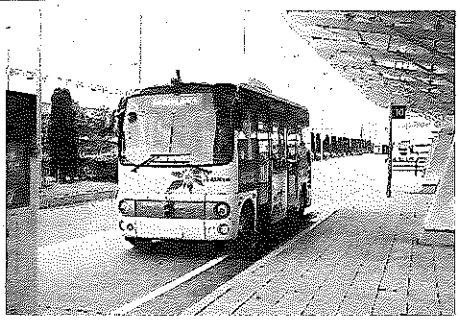
愛知県　常滑市で自動運転実証開始

荒天時の安全性調査

愛知県は、常滑市（中部国際空港周辺）において自動運転の実証実験を始めた。期間は3月10日までの計11日間。一般客向けの定期運行をテーマに、小型バスを使ってさまざまな気象環境下における課題抽出を行う。

実証実験は、中部国際空港とイオンモール常滑間の約5キロで行う。使用する小型バスはGNSS（高精度衛星測位）と3Dマップに加え、磁気マーカー（GMPS）を組み合わせた自己位置推定技術を搭載しているのが特徴。

GMPSは道路に埋設された磁気を発するマーカーを、車両に取り付けられた磁気センサーモジュールで読み取り、車両の自己位置を正確に特定するもので、中部国際空港連絡道路に92個のマーカーが埋められている。



小型バスは車重が重く、機敏な加減速、操舵が難しいため、自動運転時もよりスムーズな車両制御が必要とされている。そのため今回の実証実験ではGMPSを含めた自己位置推定技術などを検証し、風や雨など荒天時での安定走行の実現を目指す。

愛知県は2023年度、常滑市のほか、長久手市、名古屋市の全3カ所で実証実験を実施している。